



雄志中 HP

挑戦! 雄志魂

自分の将来は…?

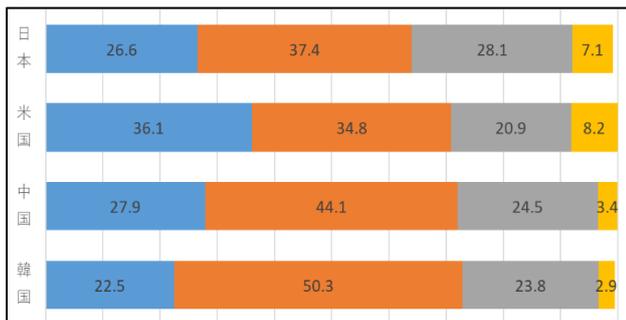
校長 中野博史

昨年6月に、国立青少年教育振興機構が「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書ー日本・米国・中国・韓国の比較ー」を発表しました。予測不能な社会、AI時代を生きる現在の子どもたちが、自分自身をどのように捉えているのか、また今の社会をどのように感じているのか、日本・アメリカ・中国・韓国の4か国で実施したアンケートを基にデータで示されています。大変興味深いデータばかりでした。その中で、特に気になったデータを少し紹介します。ぜひ、親子で一緒に見て、考察してください。

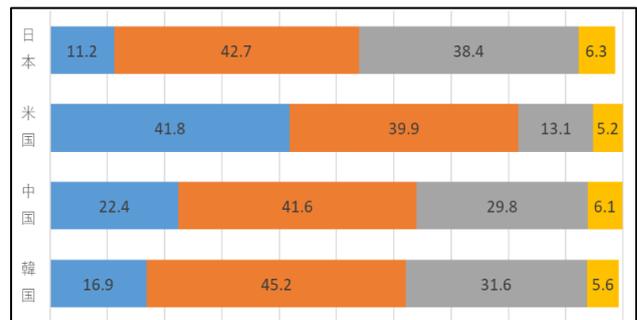
<自分の将来に関する意識調査>

■よくあてはまる ■まああてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない

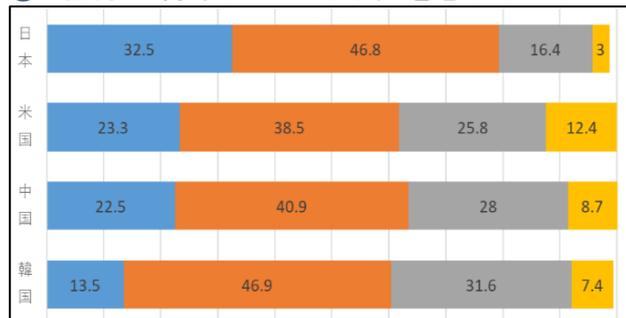
① 自分の将来についてはっきりとした目標を持っている



② 自分の将来は明るい



③ 自分の将来について不安を感じている



報告書は「他国に比べ、日本の高校生たちは、将来に不安を抱えながら、目標を模索している生徒が多い」と考察していました。

さて、雄志中学校の皆さんは自分の将来をどれくらい意識していますか。超高齢社会、ICTの急速な発展、物価の高騰、気候変動、災害など、将来を不安視させるようなニュースが多い世の中であることは確かです。しかし、

2学期の体育祭や音楽祭などに取り組む姿から、皆さんが21世紀社会を生き抜く力を、少しずつですが、着実に身に付けてきていることが伝わってきました。将来の夢やチャンスは、遅かれ早かれ、必ず遭遇するものです。ぜひ、決して、後ろ向きになることなく、前向きに、ポジティブな気持ちで生活していくことを期待しています。

*** 12月の主な予定 ****

5日(木) 生徒会役員選挙立会演説会(オープンスクール)

7日(土) アンサンブルコンテスト(吹奏楽部参加) *会場: 上越文化会館

11日(水) ~ 13日(金) 期末面談 *面談日時は、後日配布される2次案内でご確認ください。

23日(月) 2学期終業式(給食あり。給食後、下校)

教育のデジタル化について

教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉を知っていますか。DX は、ビジネスの現場でよく使われている言葉でしたが、最近では教育の現場でも使われるようになりました。DX を簡単なことばに置き換えれば、「デジタル化」「デジタル変換」ということです。つまり、教育DXは、教育において最新のデジタル技術を活用して、教育の手法や手段、教職員の学校業務などを変革させることをいいます。(以下の文部科学省が作成したイメージを参照ください)

①子供の視点

- 学ばせようになったことや苦手なことが一目でわかる!
- 学びを振り返る
 - 自身の学びや成長の記録を一目で振り返り、強みや弱点を簡単に把握することが可能
- 学びを広げる・補う
 - 今、勉強していることを使って、中学校ではこんなことを学ぶのか。試してみよう!
 - 興味のある分野を発展的に学習
 - 苦手分野克服や復習のためのレコメンド
 - 不登校・病気で学習できなかった分野を補う
- 学びを伝える
 - 学校と家庭での学びなどをつなぐことができる
 - 転校・進学しても何を学んだかが残っている
 - 資格や履歴の証明等をデジタルで提示できる

②教師の視点

- きめ細かい指導・支援
 - 子供一人ひとりに関する様々なデータを一目で把握
 - 「ノーマーク」だった児童生徒を早期発見、支援
 - 学校全体で子供の様子を把握し、支援
 - 転校・進学前の子供の様子も分かる
- 教師自身の成長
 - これまでの経験・知見と照合
 - グッドプラクティスを共有し、指導改善に活用

③保護者の視点

- 転校したばかりなのに、先生は自分のよさを理解してくれている!
- 子供の学習状況を踏まえて、家庭学習の支援ができる!
- 子供の様子を確認
- 学校との連絡も容易に

④学校設置者の視点

- 私はこう思うけど、データによるとどうなのか。ポイントになる部分がないか確認しよう。
- 学校ごとのデータをリアルタイムで参照
- 学校への調査が負担なく簡単に
- 類似自治体と比較し、施策改善が可能になるほど。不登校が減った市の取組は、こういう点が共通しているのか。

参考・出典：文部科学省HP 「教育データの利活用に係る論点整理(中間まとめ)概要」 令和3年3月
(https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_syoto01-000013887_5.pdf)

21世紀に入ってから社会は急劇に進化し、日常生活にインターネットは不可欠な存在となりました。身の回りは、インターネットに接続する機器であふれかえっており、現在の児童生徒たちは常にスマホ、ゲーム、パソコンなどインターネットにつながる端末に触れながら生活している状況です。学校で育成する資質・能力もデジタルネイティブ世代とも言われている現在の子どもたちがこれからの社会を生き抜いていくために必要な資質・能力も、インターネットなしでは育成できない時代となりました。そのため、学習方法も大きな変革が求められているのです。

ご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症の蔓延により急速に進められたGIGAスクール構想(大容量高速回線の整備、一人一台の端末配備、教育クラウドの活用)により、学校の学びは大きく変わりました。授業はもちろんのこと、毎日、学習用iPadを家庭に持ち帰って家庭学習でも活用するようになり、この数年で、学習用iPadは筆記用具と同様に学習用具の一つとなりました。すでに英語はデジタル教科書が導入されていますが、今後は他の教科でもデジタル教科書が導入されたり、デジタル(アプリ)のドリルやワークブックを活用した学習やコンピュータやタブレット端末で解答するテストなどが取り入れられたりします。教職員もこれらの対応に追われているのが現状であり、よりよい教育を実践できるよう日々研修しています。来年度の4月に全国で実施される学力・学習状況調査では、中学校の理科のテストはタブレットによる解答となることが決まっています。また、雄志中学校でも、各教科の副教材にデジタル教材を導入しようか、検討しているところです。



昨年度、上越市は「保護者連絡システム」を導入し、学校からの便りや連絡はデジタルでの配信となりました。また、新潟県も昨年度から公立高校入試の出願にインターネットを利用したWEB出願を導入しています。21世紀のど真ん中を生きていく子どもたちのために、大人もDXに慣れなければいけませんね。